

に 仁方小だより

第9号

令和8年9月1日
呉市立仁方小学校

2学期のスタート

まだまだ暑い日が続いています。子どもたちはどんな夏休みを過ごしたでしょうか。暑くて、なかなか外で遊ぶのも難しい日が多かったかもしれません。学校では、エアコンのない教室もあります。外廊下なので、一步外に出ればむんむんする暑さがまわりつきます。教室の中も、たくさんの子どもたちが入ると一気に熱を帯びます。暑いだけで、やる気も集中力も奪われそうです。

とはいえ、子どもたちの元気な声が聞こえるのは、嬉しいものです。こちらでも子供たちのパワーに負けないう、体力・気力を整えて、暑さに負けずに頑張ります。水分補給や登下校の暑さ対策など、気を付けてあげてください。ご協力よろしく願いいたします。

青い目の人形シリーズ 3

青い目の人形とは？

青い目の人形とは、1927（昭和2）年にアメリカから日本の子どもたちに贈られたフレンドシップ・ドール「友情人形」のことです。

その歴史的経緯は、日露戦争（1904～1905）後に遡ります。協調的な関係を保ってきた日本とアメリカは、日露戦争後、満州の鉄道権益や日本人移民排斥問題等を巡って対立が表面化し始めていました。日米関係を改善するためには国民レベルで親善を深める必要があり、外相小村寿太郎から民間外交の必要性を説かれた渋沢栄一は、その後民間人の立場から日米関係改善のために力を注いでいきます。

明治から大正時代にかけて、多くの日本人がアメリカに移り住んでいましたが、アメリカにおける日本人移民排斥問題が激化し日米関係が悪化する中、国民レベルでの親善に尽力した人物が、日本では、「日本資本主義の父」とも称される渋沢栄一、アメリカではシドニー・ルイス・グーリックです。

グーリックは宣教師として20年以上日本に滞在する間に、日米関係改善のために奔走する渋沢と京都で出会っています。グーリックは病気治療のためアメリカに帰国後、日本での渋沢の活動に呼応してアメリカで日米友好のための活動を展開します。しかし、アメリカでは1924年、日本人のアメリカ入国を禁止する移民法が制定され、ますます日本人への偏見差別が強まっていく中、未来の世界平和のため、子どもたちの心に文化的理解と友情や親しみの基盤を打ち立てようと、グーリックは友情人形を贈ることを計画しました。全米の子どもたちから寄せられた「友情人形（Friendship-Doll）」を日本の生活文化であるひな祭りに送ると、日本の子どもたちも喜ぶだろうと、日本で生活し日本語にも日本文化にも精通したグーリックは考えたのです。（略）

渋沢達日本児童親善会によって受け取られた約1万2000体の人形は全国に配布されましたが、小学校・幼稚園の配布される際、展示や陳列が行われ、多くの人々がアメリカから贈られた青い目の人形を見ることができるようになり、日本各地で大歓迎されました。326体の人形が届いた広島県では、広島県商品陳列所（現在の原爆ドーム）に展示され、アメリカの人形を人目見ようと4万人以上の人々が押し寄せたそうです。

青い目の人形は、それぞれがパスポートを持っており、洋服の珍しかった当時、来ている洋服や目を閉じたり声を出したりする人形は驚きとともに大切に受け入れられました。

出典「福山市立金江小学校の青い目の人形 フレンドシップドール『コーラ』～つながっていく学び～教育資料」一部抜粋

青い目の人形がつなぐご縁

8月24日（月）

平和をたくす紙芝居「ふうちゃんのそら」の原案者である、中埜房江さんとその脚本・絵を担当された、よこみちけいこさん（仁方小学校にサイン入りの絵本をプレゼントして下さったこともあります。）そして、「呉かみしばいのつどい」の皆さんが「仁方小にある『青い目の人形を見たい！』と来校されました。悲惨な戦争をくぐりぬけてきた中埜さんと仁方小学校の青い目の人形「ルーズ・ナオミ」の出会いに感慨深いものがあります。



皆さんに紹介するときに、2年前の6年生が作成したパワーポイントを見ていただきました。中学2年生の皆さん、勝手に使ってごめんなさい。でも、それに合わせてクイズにも答えてくださり、「とてもよく分かった。」と言ってくださいました。このパワーポイントも引き継いでいかなくてはいけないと思っています。

「呉かみしばいのつどい」代表の関家さんから、「アメリカと日本の友好の使者として、パスポートを持って来たお人形に、戦争という悲劇が押し寄せ、それでもこうやって今私たちが会えることが出来たことに、何とも言えない辛く複雑な気持ちになり、胸が苦しくなりました。仲間もそれぞれが、この事実に向き合う機会をいただき、紙芝居を演じる上で更に平和の思いを込めて演じることができると感じました。」という感想をいただきました。

茨城県に残された青い目の人形「メリー」を題材にした紙芝居もいただきました。ありがとうございます。今後また何かで一緒できればいいと思っています。

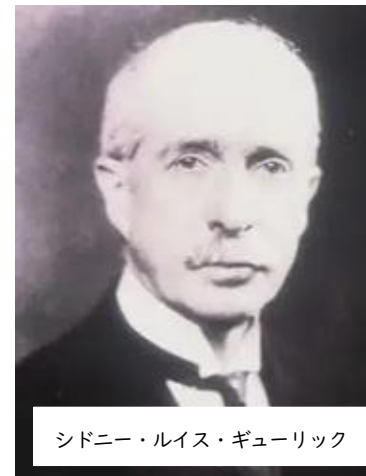


8月27日（木）

「仁方小学校の卒業生です。青い目の人形について教えてください。」と電話がかかってきました。その方は68歳で、プールができたときに6年生だったそうです。県民文化センターで行われた「平和のための広島の戦争展」を見に行った時に、仁方小学校の「青い目の人形」についての情報を得たそうです。

どんな経緯で仁方小学校にあるのか、とても熱心に質問されました。そして、仁方小学校に「青い目の人形」があることをとても喜んでおられました。機会があれば、小学校に会いに来ていただきたいと思っています。

青い目の人形が贈られてから100年を迎えるということで、仁方小学校にも、様々な問い合わせや依頼が届いています。日本の各地とつながって、平和の思いを広げていきたいと思っています。



シドニー・ルイス・グーリック



渋沢 栄一

